2014
2015

Earth Company

Annual Report

一般社団法人
アース・カンパニー
2014・2015年度活動報告書

"We do not inherit the earth from our ancestors. We borrow it from our children."

この地球は、先祖から継承したのではなく、私たちの子供たち、子孫から、借りているのです。

2016

ロビン・リム

Robin Lim

ブミセハット助産院創設者
助産師

妊娠合併症で妹と姪を亡くして以来、世の女性に直向きに寄り添ってきたロビン。ASEAN で最も母子死亡率高く、過剰な医療介入が問題視されるインドネシアを拠点に、365 日、24 時間、無償かつ「愛ある丁寧なお産」で、母子を守ることに生涯を捧げる。これまでに、約８千人の赤ちゃんをとりあげ、インドネシア、フィリピン、また世界の被災地での年間受診数は、約６万件に及ぶ。助産院の域を遥かに超え、お母さんと赤ちゃんだけでなく、その後の彼らの人生にまで寄り添うのが、ロビン率いるブミセハット助産院。「必要なのは、愛、想う心、忍耐、そして母子を心から信じること。誰かが信じてくれれば、その人は輝くことができる」とロビンは言う。

2015

ベラ・ガルヨス

Bella Galhos

ルブロラ・グリーン・スクール創設者
東ティモール大統領補佐官

インドネシア支配下となった東ティモールで育ったベラは、兄弟は殺され、本人もわずか5ドルで人身売買され、少女兵として東ティモール解放運動に思春期を投じた。軍による大虐殺から間一髪で助かったベラは、「ここにいてはこの国を救えない」と悟り、国外脱出計画を企て、インドネシア賛成派に扮して入隊。あらゆる性的・肉体的虐待に耐えつつダブルライフを３年送った後、カナダに亡命し、難民認定を受け、カナダで独立運動を続けて国の独立に貢献した。ベラの大胆不敵さ、国の未来にかける情熱に触れて心打たれない者はいない。そんな彼女が、全エネルギーを注いでこの国の子ども達の未来のために行う事業。支援しないという選択肢は、なかった。

Earth Company
Annual Report 2014・2015

目次 Contents

4 設立背景

6 共同創設者 プロフィール

8 私たちの活動：3 本の柱

10 Impact Hero of the Year

12 Impact Hero of the Year 2015
Bella Galhos ：東ティモール / ルブロラ・グリーンスクール

16 Impact Hero of the Year 2016
Robin Lim ：インドネシア / ブミセハット助産院

20 私たちのワークスタイル

22 イベント・レポート

23 今後の展望

24 支援者の方々からのメッセージ

25 支えてくださる企業・団体

26 財務会計報告

27 支援方法

未来を託された「希望の星」に光を

Earth Company 設立の背景

14年2月、私たち濱川明日香・知宏は、恐れ多くもダライ・ラマ14世から『Unsung Heroes of Compassion（謳われることなき英雄）』という栄誉ある賞をいただきました。4年に一度、世界から50人、見返りを求めずライフワークとして人道支援活動を日々行う人々が選ばれ、表彰されるものです。

当初は「私たちは到底この賞に値しない」と辞退を考えましたが、ある人の存在が、私たちの背中を押しました。彼女の名はベラ・ガルヨス。「もしもベラをゲストとして授賞式に連れて行けるのであれば、受賞の意義があるかもしれない」と、ありがたくお受けすることにしました。

私たちはこれまでの国際開発・支援活動の中で、多くの素晴らしい活動家に出会ってきましたが、なかでも、圧倒的にこの賞にふさわしいと確信したのがベラでした。ベラを授賞式に連れていき、彼女の生き様と活動を多くの要人に伝えることができれば、彼女の今後の活動を飛躍させるきっかけが生まれるかもしれない。この「橋渡し」こそが、受賞の意義だと思いました。

私たちがベラと出会ったのは07年ハワイ大学大学院。彼女は当初から、奨学金の一部を仕送りに当て、43人の兄弟始め百人を超える親戚・遠戚の家計を支える傍ら、独立して間もない東ティモールを再建するため、勉学に励んでいました。日々、彼女の過去、そして描く未来についての話を聞き、当時より、将来この人が動く時には、絶対に応援しようと心に決めていました。

授賞式が行われたサンフランシスコで、グリーン・スクール設立に対する政府からの大規模な資金援助が白紙に戻されたことを聞き、「その時が来た」と、迷いなく支援を決めました。

これが、アース・カンパニー設立のきっかけです。

ベラのように、地元コミュニティや国民から信頼され、期待され、未来を託された「逸材」は、世界に他にも存在します。私たちのこれまでのキャリアの中でも、稀に、私たちを圧倒的にインスパイアする「傑物」がいました。彼らは、それぞれのコミュニティにおいてロールモデルであり、「希望の星」で、そしてヒーローです。

しかしそのようなリーダーは、必ずしも支援へのアクセスや機会がありません。そんなリーダーたちに光を当て、みなさまと共に水となり太陽となり栄養を注ぐことで希望の花を咲かせるお手伝いをするために生まれたのが、アース・カンパニーです。未来に「変革」を起こす彼らを後方支援することで、私たちの子供達、そしてそのさらに先の世代に残せる豊かな未来を創造することが、私たちのミッションです。

Aska

濱川 明日香

代表・共同創設者

専門領域：
オセアニア（太平洋諸国）における気候変動の影響（特に社会文化的影響）を専門とする。サモアと日本では災害（緊急・復興）支援を担当。オセアニア・アメリカ・日本において NGO 運営経験を持つ。准認定ファンドレイザー。

2001

- ハーバード大学卒業。

2002

- ハーバード大学ケネディ行政大学院入学。

2003

- 中国・北京へ飛び、中国語を学びつつ、英語を教え、中国経済の大躍進を体験。

2004

- NGO スタッフとしてチベット高原で働き、志を共有する仲間と社会貢献に没頭する生きがいを知る。

2005

- ボストン大学卒業。

- サモア・トンガなどオセアニアを旅し、太平洋諸国における気候変動の影響を目の当たりにする。

2006

- 外資系コンサルティング会社（Price waterhouse Coopers）に入社。

2007

- UNICEF インドでインターン。

2008

- ケネディスクール卒業。米国ハワイ州 East West Center の Asia Pacific Leadership Program 参加。

2009

- 英国大手財団 Children's Investment Fund Foundation（CIFF）のインド支社に就職。

- オセアニアにおける気候変動の影響について研究するため、ハワイ大学大学院に進学。

2010

- 革新的なテクノロジーを最貧困層へ届ける NGO コペルニクに、活動開始段階からボランティアとして参画。

2011

- CIFF イギリス本社に異動。子供の保健・教育・権利に重点を置いたプロジェクトの企画推進・評価を行う。

- ハワイ大学大学院より修士号取得。

2012

- 20年ぶりに日本に本帰国。コペルニクの東京スタッフとして参画、BOP コンサル事業を担う。

- 気候変動の影響で世界で一番最初に沈むと言われるツバルを支援する国際 NGO Tuvalu Overview の副代表に就任。

結婚

2013

- Institution for Global Society（IGS）にて日本の青少年のグローバル教育に従事。

2014

- 東京大学大学院医学部 Global Health Leadership Program の特任助教を勤める。

2015

- コペルニクが本部を構えるバリ島に転勤。

- 第二子出産。

アース・カンパニー設立

- 日本ファンドレイジング協会の準認定ファンドレイザー資格取得。
- コーネル大学経営大学院にて、MBA マーケティング戦略プログラム修了。
- Tuvalu Overview 退職。

Unsung Heroes of Compassion をダライ・ラマ師より受賞

- 米国マサチューセッツ工科大学（MIT）の、気候変動に関する解決策を世界中から募る集団知能プログラム Climate Calab 運営参画。
- 第一子出産。

Tomo

濱川 知宏

共同創設者

専門領域：
国際開発援助の領域で、国際保健・教育・子供支援、またモニタリング・評価を専門とし、アジア・アフリカにおける幅広いフィールド経験を持つ。現在は、BOP ビジネスやソーシャル・イノベーション促進活動、また学生・社会人のグローバル教育も手がける。

アース・カンパニーの活動

「３本の柱」

具体的には、以下３つのアングルで、「社会変革」を創出サポートしていきます

① 途上国で実際に社会変革を起こしている現地起業家を支援すること（支援事業）
② 今後を担う世代から、社会変革をもたらす人材を育成すること（教育事業）
③ 国際支援に限らず、組織として社会変革を起こしている団体をサポートすること（コンサルティング事業）

1 ［支援事業］

Empower

アジア太平洋の社会起業家支援

課題の多いアジア太平洋地域の途上国で、「この人が未来を変える！」と確信させる、革新的で情熱的な社会起業家を、「Earth Company's Impact Hero of the Year」（P10）として年に一人厳選し、ファンドレイジング始め、事業発展のための様々な機会創出を支援。

2 ［教育事業］

Inspire

社会に変革をもたらす次世代リーダーを啓蒙・育成

社会貢献や国際支援を志す熱心な若者に対し、ソーシャル・イノベーションやソーシャル・ビジネスなどに触れ、その後の人生に大きく影響するような体験型のプログラムを提供し、未来を担う若き次世代リーダーを啓蒙・育成。

3 ［コンサルティング事業］

Advise

社会的企業・団体に対するアドバイザリー

社会変革に挑む事業や団体のニーズ・課題に対し、経営戦略コンサルティング、モニタリング評価に関するアドバイザリーなどを通し、より大きな社会インパクトの創出をサポート。

支援を支援する。

アース・カンパニーは、
「未来を託された」途上国の社会起業家と
日本のみなさまの「橋渡し」を行い、
後世へよりよい地球を引き継ぐ活動への
支援の輪を広げることを目指しています。

「この地球は、先祖から継承されたものではなく、
子供達から借りているのである。」

～ネイティブアメリカンの格言

私たちの活動の根本は、この言葉に集約されています。

この地球は、本来は後世の人々のものであり、私たち大人が、大切な子供たち、子孫から当面の間借りているものです。
しかし、20 世紀の経済発展を最優先させた世のあり方は、環境、社会、人に、多くの弊害をもたらしました。

私たちは今、自信を持って素晴らしい地球を子供たちにバトンタッチすることができるでしょうか？

その危機感から、アジア太平洋の途上国で、「後世にに残せる未来」のために全情熱をかけて社会に変革をもたらす社会起業家を、
支援者のみなさまにご紹介し、その支援活動を通して、同地域により多くの希望を創出していくことが、アース・カンパニーのミッションです。

日本もその一員であるアジア太平洋地域には、素晴らしい環境や文化、そして人々がいます。
私たちはこの活動を通じ、ひとりでも多くの日本人が各地域への理解と学びを深め、
「未来のために行動を起こす」そのきっかけになることを目指しています。

プロジェクトリスト

事業カテゴリ	実施時期	対象	対象国	団体概要	サービス提供内容
支援事業	2014-2015	ベラ・ガルヨス（ルプロラ・グリーンスール代表）	東ティモール	東ティモール初の環境教育学校を運営	ファンドレイジング・機会創出支援
コンサルティング事業	2015	日本ファンドレイジング協会（JFRA）	日本	寄付や社会的投資の拡大を目指し、ファンドレイザー認定制度やカンファレンス、寄付白書の発行などを行う。	JFRA 出版の本『社会的投資市場形成に向けたロードマップ』英訳
コンサルティング事業	2015	NGO Kota Kita	インドネシア	インドネシアの都市開発問題、貧困問題など様々な社会課題を市民参加によって解決する NGO	モニタリング評価に関するコンサルティング
支援事業	2015-2016	ロビン・リム（ブミセハット助産院代表	インドネシア・フィリピン・世界の被災地	インドネシアや世界の被災地で貧困層の妊産婦に対し、24 時間 365 日無償医療を提供。	ファンドレイジング・機会創出支援

Earth Company's IMPACT HERO of the Year

途上国の未来を託された「希望の星」

アース・カンパニーは以下のような逸材を、『Impact Hero of the Year』として
年に一人厳選し、ファンドレイジング始め、事業発展を促進する機会の創出支援をしています。

共同創設者濱川明日香・知宏がこれまでに出会った途上国の素晴らしいリーダーたちの中で
稀に、ふたりの度肝を抜く「傑物」たちがいました。

彼らの多くは、輝かしい学歴や職歴があるわけではなく、NGO 運営経験もありません。
しかし、どんな国際開発コンサルタントや専門家よりも
そのコミュニティに根差す課題を、文化・歴史的背景を、人々を深く知り
コミュニティに信頼され選ばれたリーダーたちでした。

このようなリーダーは、先進国で一般的とされる運営方法でなかったり
緻密な計画より行動、理論よりも実践する性質から
なかなか国際機関や財団の助成を受けることがありません。
大きな団体は、クレディビリティやインパクトの大きさ
またその測定可能性を重視せざるを得ませんが
アース・カンパニーは、インパクトの幅より深さ、量より質を重視し
彼らのポテンシャルを信じるからこそ
一緒にリスクを背負ってでも、彼らが創る未来に投資します。

国際開発業界の中で、各団体が担う役割は異なり、それぞれが必要とされることです。

アース・カンパニーならではの使命は
上記のような「規格外」なリーダーをサポートすることだと、考えています。

IMPACT HERO ってどんな人？

1. コミュニティに求められ、期待され、未来を託された「希望の星」
2. 途上国の逆境の中でも突出する壮大な情熱、信念、熱量
3. 利権・利害関係に囚われない、純粋な社会的動機
4. 体制を恐れず、固定観念に囚われない、型破りな行動力
5. 人の心を突き動かし、動員する、一際輝くカリスマ、求心力
6. 従来のシステムではない、サステナブルな未来を創ろうとする未来志向
7. 私たち先進国の人間が、その人からインスパイアされ、学べるもの

を兼ね揃えた、そんな人です。
彼らはきっとみなさんの心も突き動かし、その人を支援することで、私たちが逆に励まされ、
生きる「勇気」を与えてくれる、そんな人たちです。

アース・カンパニーが提供する「支援」とは？

以下二つの支援を通し、彼らの活動に共感・賛同してくださる個人・団体との「橋渡し」を行い、
サポートネットワークを拡大することが、私たちの支援の形です。

① ファンドレイジング：個人支援者からの資金調達、助成金の代行申請
② 機会創出：メディア広報、パートナーシップ構築など

① ファンドレイジング

単発的な資金援助は、サステナブルではありません。一方、継続的な支援は、支援に対する依存体制を作ることになってしまいます。しかし、活動資金は必要不可欠。そのためアース・カンパニーでは、起業家の活動を紹介し、個人支援者や助成団体との「橋渡し」を行い、その支援のインパクトがより長期的に継続するようなプロジェクトに対して、ファンドレイジングを行っています。

② 機会創出

あらゆるリソースが不足する途上国では、資金調達はもちろん、国外での認知度を上げることも、事業推進に重要な要素です。そこで私たちは、メディアでの広報支援により日本での認知度を上げ、さらには国内外で新規パートナーシップを開拓することで「機会創出」を図ります。なぜなら、支援金が底をついたとしても、「機会」は長期的に影響が波及し続ける可能性を秘めているからです。志を共にする人と人が繋がって「化学反応」が起き、その大きなエネルギーが、いずれ起業家が自立できるようなサポートネットワークの確立につながることを目的として、アース・カンパニーは種を蒔き続けています。

こうして、「資金」と「機会」の両輪でサポートをするのが アース・カンパニーの支援スタイルです。

※アース・カンパニーは、一年を特別支援期間とし、その起業家にフォーカスした「橋渡し」活動に尽力します。
その年以降は、積極的なファンドレイジング活動は行いませんが、機会がそこにある限り、「橋渡し」活動は継続します。

人生を『不屈の精神』で生き抜くベラ

人身売買、少女兵、独立運動、敵軍入隊、ダブルライフ、性的・肉体的虐待、亡命、難民・・・自国の未来のためにはどんな自己犠牲も惜しまず尽力する傍ら、貧しい親戚が育てられなくなった子を引き取り、自分の子として育ててもいる。そんなベラの自宅には、今日も、絶えず助けを求める人が訪れる。

Fearless
Furious
Fierce

Timor-Leste 東ティモール ／ Leublora Green School ルブロラ・グリーンスクール

Bella Galhos

ベラ・ガルヨス

58%
東ティモールの大人の識字率

10-30%
東ティモールで学校に通っていない小学生の割合

45.7%
東ティモールの人口における１５才未満の人口の割合

50%
極度の貧困状況にある東ティモール国民の割合

45%
東ティモールで５歳未満の低体重児の割合

東ティモールの現状

450 年間のポルトガル領時代を経て、24 年間のインドネシアの支配下にあった東ティモールは 1 人当たりの年間 GDP が約 19 万円とアジアで最も貧しく、極度の貧困状態にある国。国民の 50％は貧困状態にあり、小学校に行けない子ども達も 10-30％いる。

国民の約半数の 45.7％が 15 歳未満だが、子ども達に十分な教育環境はない。大人からの関心も薄く、夜中の 2 時でも子どもが街を歩くような状況も見受けられる。現在石油による収入が唯一の国家収入といっても過言ではなく、30 年ほどで枯渇することも予測されており、持続可能な経済モデルが必要とされている。

ベラ・ガルヨスの生い立ち

10　20　30　40

3才
インドネシア軍が東ティモールを侵略。兵士に兄を殺され父親は拉致・投獄される。

16才
死を覚悟で、東ティモール解放運動を行う地下組織に入る。その後大虐殺で多くの友人が殺害・逮捕。国外逃亡を企み、インドネシア軍に入隊。

デモ中のベラ。

22才
チャンス到来、カナダへ入国。軍から逃れ、難民認定を受ける。以後東ティモールの現状をカナダ全土で伝え歩く。

27才
念願の東ティモール独立が、1999 年の国民投票で決定し帰国。自国を立て直すため国連機関で働く。

36才
アメリカ政府機関から奨学金を受け、ハワイ大学に留学し心理学と女性学を専攻。

就任式の様子。

39才
卒業後帰国し、大統領補佐官に就任。

42才
ルブロラ・グリーン・スクール設立。

ルブロラ・グリーンスクール

子ども達の心と未来を育む環境教育学校を東ティモールに

「悲観することはない。この国は、独立から間もないまっさらな状態だからこそ、今がチャンス」

ーベラ・ガルヨス

02年に独立し、未だ占領時代の惨禍から立ち直っていない東ティモールが、20世紀型の大量生産・消費主義ではなく、環境と人の暮らしが共に成長する新しい経済モデルで発展する国となること。それが、ベラの夢だ。その夢への第一歩として始まったルブロラ・グリーン・スクールの設立（以下LGS）を、アース・カンパニーは14年9月より支援開始。1年間で、支援者の方々より約五百万円の支援金が集まった。さらに、資金援助だけでなく、様々な「橋渡し」を通して、包括的に機会を創出し、LGSは15年5月に無事開校することができた。

自然と共存する未来への第一歩

侵略戦争の後遺症が蔓延る現代の東ティモールで、未だ様々な暴力に曝されて育つ子ども達は、「育む」ことを知らない。そんな子ども達に、まずは安全で、安心して「存在できる場所」を提供したい。自然の中で心を「育み」、そうして初めて自然を「育む」ことができる。自然と共存する新しい形の未来を創り出すため、知性と心を併せ持つリーダーを育むべく創設されたのがLGSだ。

五感を活用する環境教育を

LGSは、東ティモール初の環境教育に特化した施設で、首都ディリから片道3時間の農村部、ベラが祖父より受け継いだ約2万平米の土地に設立。毎週末、近隣地域の子供たちにグリーン・プログラムを提供し、小学校の夏休みや連休には、国の各地区から集まった生徒に、グリーン・キャンプを実施する。国内の環境保全NGO Haburasからスタッフが加わり、生徒達は畑仕事や家畜の世話、リサイクル、コンポスト始め、オーガニック農法や持続可能な発展について、「五感」を使って学んでいる。さらに、学びながら育てた野菜を食べることで、食育と発育状態改善も同時に図る。

未来への布石は確実に

LGSは今や地元子どもたちの「拠り所」となり、毎週末のグリーン・プログラムを多くの子どもたちが楽しみにしている。一方、グリーン・キャンプの方は難航している。国内情勢の悪化が影響し、昨年開催することができたグリーン・キャンプは、僅か2回。LGSも私たちも、未だに彷彿させる戦争の名残に、この国での事業推進の難しさを痛感した。

しかし、未来への布石は着実に打たれている。

ベラのTED動画は半年で1万回の再生回数を超え、世界中を駆け巡り、問い合わせが殺到。開校以来東ティモール大統領、首相、各省庁の要人から、日本を含む9カ国のアジア・欧米諸国まで、国内外からの訪問が絶えない。政府、米国大使館、米国財団、個人寄付より総額 $34,500 を受け、ボランティアの申請、国連機関などのカンファレンスでの登壇機会も増加。国営テレビが制作したLGSのドキュメンタリーは繰り返し全国放送され、現在はシンガポールのChannel Asia Newsもドキュメンタリーを制作中。こうしてベラとLGSの知名度は国内外で上昇し、サポートベースが大きく拡大した。

今までベラは大統領補佐官の収入をLGSの運営費につぎ込んできたが、LGSは併設するレストランや収穫物の販売収益を活動資金として活用し始めた。ベラは今年から政府の仕事を減らし、LGSにさらに注力する。

LGSは、確実に、未来への一歩を踏み出した。アース・カンパニーは、今後も可能な限り、LGSが東ティモールにより多くの希望を創出することができるよう、支援を続ける。

Photos from the Field

治安の悪さから教室には窓がない。机や椅子もまだないが、必死に学ぶ子供たち。

週末のLGSは、グリーン・プログラムを毎週楽しみに待つ地域の子供達で溢れる。

ジャングルの中の校舎。（前）教室、合宿所、遊具といちご畑（後）併設するレストラン

Project Supporter

多摩美術大学
造形表現学部デザイン学科 教授

堀内正弘 さん

東京芸術大学、東京大学大学院、イエール大学大学院、東京農業大学大学院修了。2003年日本感性工学会賞受賞。2007年グッドデザイン賞受賞。環境負荷を低減させ、心豊かに暮らせる都市環境を実現するために、さまざまな実践活動に取り組む。

ベラさんの勇気あるイニシャティブに共感し、支援しています。市場経済の波は東ティモールにも押し寄せてきており、一刻も早く世界の関心と叡知を結集させ、新しい経済モデルの構築を目指すべきです。地域がもつ可能性を引き出し、独自の展開をするための鍵を握っているのは、地元の若者の「気づき」です。そして、ベラさんの真摯で純粋な取り組みが契機となり、世界を結ぶ「共感の絆」が生まれるでしょう。LGSが、素晴らしい未来に向けたライフスタイルを育てる核となることを期待しています。

アース・カンパニーの支援

みなさまから頂いた支援金

500万円

70名を超える日本の寄付者の方々から約500万円のご支援を賜り、2015年5月10日、ついに開校式を迎えることができました。ご協力ありがとうございました。

機会創出支援

- 数々の広報マテリアル（日英）の作成
- 掲載記事（11本）
- 東ティモール初となるTEDxDiliの選考委員にベラを推薦し、TEDスピーカー第1号として選出
- バリ島元祖グリーン・スクールとのコラボレーション
- 慶応義塾大学公認団体S.A.L. がLGSを訪問
- その他ネットワーク拡大支援

未だに終焉することのない戦争の後遺症のなかで

開校後の2015年8月、政府と対立していた侵略戦争時代のゲリラリーダーの殺害により、国内の治安が悪化。LGSもその影響を受け、8月に予定されていた初めてのグリーン・キャンプが、参加者の親の不安感から、キャンセルに。2015年は、当初の予定よりもずっと少ない2回しか開催できなかった。またLGSの生徒でベラの従兄弟でもあった14歳の少年が、急性アルコール中毒で亡くなり、地元コミュニティとLGSは悲しみに暮れた。このような悲劇を防ぐために設立したLGSの生徒の死に、救うことができなかった悔しさと共に、2度と悲劇が起きないよう、関係者は一層LGSへの想いを固くした。

地域経済活性化プロジェクト

メデイア強化により社会的正義・公正の促進を目的とする米国財団から約120万円の助成を受け、ローカルネットワークの構築や地元生徒に対するメディアトレーニングが始まった。LGSグリーン・プログラムの地元生徒が地域の特産物（苺、アボカド、ハーブ、アプリコット、カボチャなど）について発信することで、LGSがサポートする地元女性による農協の広報に繋げ、販売ルートを確立し、自発的な地元経済改善と生活向上を図る。そのプロセスの中で、地元の子供たちが、自身のルーツや地域に誇りを持ち、「表現」することで自信を確立していくことを目的としている。

今後の展望と支援ニーズ

2016年は、グリーン・キャンプの安定した実施を目標とする。6~8回の開催を予定。今後2-3回分のキャンプ用物資は、アメリカ大使館の協力により確保しているが、財源が不足しているため、今後は、一般向けの宿泊施設やカンファレンスホールを増設し、収入源を拡大したい。ファンドレイジングイベントが2回企画され、助成金申請も積極的に行う予定。今年は国内各地区の生徒たちとの交換プログラムも開始し、LGSが開催する地域のフェスティバルなど、すでに多忙な一年が予測されている。事業推進のため、現在数人のボランティアも募集中。

Message from Bella

ベラからの感謝の言葉

日本の皆様には、いつもLGSへの温かい応援とご支援を頂き、心から感謝しています。それが呼び水となり、LGSはたくさんの方に支えられ、様々な個人や団体から、常時物資や寄付が寄せられるようになりました。東ティモールの情勢は未だ安定せず、多くの試練や課題があります。しかしそれを乗り越え、こども達自身がいずれ真の意味での「豊か」な未来を切り開くことができるよう、日本からも応援よろしくお願いいたします。

Indonesia
インドネシア

Bumi Sehat Foundation
ブミセハット助産院

Robin Lim
ロビン・リム

生涯を「壮大な愛」で貫くロビン

5児を安らかに自宅出産し、再婚して7児の母に。
その後、ブミセハットで生まれて、
貧困により育児放棄された赤ちゃんを養子にし、8児の母となった
赤ちゃんにとって、子宮は人生で最初の「学びの場」
愛あるお産で生まれる子供は「愛する力」「信じる力」を養い、
彼らこそが、平和な世界を築いていく
そう固く信じるロビンは、今日も、
ブミセハットを訪れるすべての母子に、無償の愛を注ぐ

Love
Love
Love

803人
世界で１日に亡くなる妊産婦の数

300倍
先進国と比べた時の最貧国の妊産婦死亡率

1万円
一人の赤ちゃんを安全に迎えるための
丁寧で自然なお産に必要な金額

12万円
年間１６万人以上が受診する
ブミセハットクリニックの１日の運営費

途上国でのお産の状況

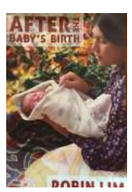
インドネシアでは、妊産婦死亡率が 359 人（10 万人当たりの死者数・2013）と東南アジア諸国でも最悪の水準となっている。日本の妊産婦死亡率は 3.8 人であることから、実に約 100 倍もの死亡率だ。

この高い妊産婦死亡率の原因は、貧困、飢餓、栄養不足。貧困層の妊婦は健診も受けられず、栄養不足が早産や、命取りとなる大量出血を引き起こす。さらに医療の過剰介入も多く、病院の都合で出産時間を短縮するため、不必要な陣痛促進剤の使用や帝王切開も、問題視されている。

ロビン・リムの人生

10　20　30　40　50　60

0才
1956 年、フィリピン・ルソン島の山岳地域で、アメリカ人の父親とフィリピン人の母親の間に生まれる。



ロビンを取り上げた雑誌の表紙

19才
女児を自宅出産。娘を抱っこ紐で抱えながら大学に通う。

24才
第２子を出産。カリフォルニア州からハワイに移住し、教員となる。離婚し、シングルマザーに。後、お産についての本を執筆。

34才
アメリカに住む妹が、忙しい主治医に診てもらえなかったことから妊娠高血圧症で亡くなる。助産師として生きることを心に決める。

36才
再婚し６児の母に。バリへ移住し第７子を出産。産後、村の産婆さんとして引っ張りだこに。翌年 NGO ブミセハットを設立し、昼夜地域のお産に立ち会う。

49才
ブミセハット助産院のバリ・クリニック開業。同年スマトラ沖大地震後緊急医療支援を行い、後アチェ・クリニック設立。２年後、貧しい家庭に生まれた捨て子を養子に。

55才
CNN の「ヒーロー・オブ・ザ・イヤー」を受賞。賞金を全て助産院の運営に投じる。２年後、甚大な台風の被害を受けたフィリピンで緊急支援。後フィリピン・クリニック設立。

59才
フィリピンで最も栄誉ある「Bayanihan Peace-builders Award」を大統領より受賞。これまでに 19 冊を執筆。現在８児の母。

ブミセハット助産院

世のお母さんたちに、ひたむきに寄り添う一人でも多くの助かる命を救うために

92年のある日、バリ島のまだ水道も電気も通っていない村で、年老いた村のお産婆さんが、「10日後に私の代わりが来る」と言い残し亡くなった。10日後にこの村に訪れたのが、7人目の子どもを妊娠していたロビンとその家族だった。その2年前、ロビンは妹とそのお腹の子を妊娠合併症で亡くしていた。助かる命だった。忙しい病院で、不調を訴えた彼女を診てくれる医師がいなかったのだ。愛する妻と娘を失った義弟、最愛の娘を若くして失った自分の母の哀しみに暮れた極限の姿に、こんなことが起こっては絶対にいけない、と心に深く刻んだ。そして誓った。「人間いつ死ぬかわからない。だったら『愛』に生きよう、世界中のお母さんに寄り添って生きていこう。」と。バリ島で第7子を産み、床上げと同時に、亡くなったお産婆さんの予言を信じた村人からロビンにお産婆の依頼が相次いだ。そこで知ったのが、妹のような死が途上国では決して稀ではない、という現実だった。数年後ロビンは米国で助産師の資格を取得し、95年に活動を正式に法人化。その後20年、お産の母「イブ・ロビン」（「マザー・ロビン」の意）として、国境を越えて多くの人に慕われている。

「助産院」の域を遥かに超えるブミセハットの活動

ロビンはよく、「医療は人権である」と言う。ブミセハットは患者を選ばない。貧しい人も、どんな宗教の人も、どんな病気の人も、24時間、365日、無償で受け入れる。丁寧で自然な分娩にもこだわり、インドネシア、フィリピン、世界の被災地で、今までに約八千人の赤ちゃんを、安全にこの世に迎えてきた。小さなクリニックとして始まったブミセハット助産院は、現在では一般医療、鍼灸・漢方などの代替医療、眼科検診、コミュニティ往診など医療サービスだけでなく、高齢者ケアや、助産師育成・奨学金制度、青少年への教育プログラム、村のリサイクルプログラムまでをも提供。今やコミュニティの「駆け込み寺」となっている。さらには、国際人道支援NGOと言っても過言ではない活動も。ブミセハットは、災害が起こるとすぐにチームを派遣し、仮設クリニックを設置しているのだ。津波が全てを流しても、赤ちゃんは容赦なく生まれる。これまでに4カ国5つの災害において、緊急医療支援を実施。仮設クリニックに列が絶えることはない。過去20年間にわたり、この活動全てが、世界中からの寄付により賄われてきた。こんな助産院は、世界中どこを探してもおそらくないだろう。

そこまでするの!?

妊産婦にとことん寄り添うのが、ロビン率いるブミセハットのポリシーだ。貧困・栄養失調の産婦には、産後自宅に様子を見に行き、窮状があれば食料や服を支援し、夫に仕事の紹介までする。死産の場合、埋葬費が払えない夫婦には、費用を肩代わりする。緊急で病院搬送され、医療費が払えず赤ちゃんを未払費用の担保として取られたと聞けば、人権弁護士を従えて連れ戻す。助産院がそこまでする必要はもちろんない。しかし、生涯を「愛」で貫くロビンに、それをしない選択はない。現在ブミセハットバリ・クリニックでは、新しいクリニックを建設している。しかし不足する建設費を補うには、16年の運営費を切り崩さなければならない。それを防ぐため、アース・カンパニーは、ファンドレイジング始め、広報、記事掲載・執筆、パートナーシップ構築、助成金の代行申請などを通して、一年の特別支援期間が終わる16年6月まで、全力で、集中的にサポートする。

Photos from the Field

15年6月。ネパール大地震後にブミセハットの仮説テントで出産する女性に笑顔はなかった。

妊婦さんに寄り添うロビン。無条件に愛を注ぐロビンの手は、触れる者に母親を思わせる。

バリクリニック。妊婦が安産針をしてもらう鍼灸室。20年前の建物で雨漏りは絶えない。

Project Supporter

助産師
筑波大学 医学医療系 助教

福澤（岸）利江子 さん

イリノイ大学シカゴ校看護学部博士課程修了後、昭和大学横浜市北部病院、東京大学を経て現職。周産期ケアの国際比較やドゥーラサポートを専門とする。

出産は人生の通過点の１つでありながら、女性と赤ちゃん、家族、ひいては社会に大きな影響を及ぼすとても重要な時期です。この時期の心のこもった良質な医療は人権である、というロビンさんの信念と行動力、ご活動を支援してきた方々の存在の尊さ。実際にここで出産ケアを受けた濱川夫妻の語り以上に、本物の言葉はありません。ブミセハット助産院はこの社会の「希望の光」、絶対に存続してほしい母子支援モデルです。

アース・カンパニーの支援（16年３月現在）

これまでにみなさまから頂いた支援金

336万円

需要は増える一方で、新月・満月の夜は、分娩室の外に陣痛中の産婦さんの列ができるほど。建設中の新クリニックは、今の３倍以上の出産数に対応できるようになります。建設費は未だ2500万円不足していますが、現在世界で複数の団体が協力し合いファンドレイジングを行っており、ECは750万円を目指しています。

売られた赤ちゃんまでも救い出すロビン

イェティと夫のムリオノはとても貧しく、バリ島のスラム街に住んでいた。双子を授かったふたりは、無料でお産ができるブミセハットへ、数時間歩いて検診に通っていた。陣痛が来たある日、ブミセハットへ歩く途中に産気づいてしまい、近くの産院に運び込まれ、イェティは双子を出産。しかし出産費用の半分しか払えず、赤ちゃんの１人を未払費用の担保にとられてしまった。２週間後、偶然出会ったロビンにムリオノは泣き崩れ、奪われた赤ちゃんの話をした。ロビンはすぐに彼を連れてその産院に行ったが、赤ちゃんはすでに売られてしまっていた。ロビンは直ちに弁護士を手配し、赤ちゃんを探したところ、ジャワ島で見つかり、奇跡的に、救い出すことができた。

被災しお腹の子を亡くした女性に奨学金を提供

ネパール大地震で最も深刻な被害を受けた地域で被災したサビタ。夫の実家は潰れ、祖父は命を落とし、父は脊髄損傷で一生動けない体に。サビタ自身も妊娠していたが、地震後に十分な水と食料がなく、流産してしまった。それでもなお、聡明で救急医療の知識があった彼女は日夜、苦しむ被災者に尽くし続けた。彼女に出会ったブミセハットは、即奨学金の提供を決め、サビタは現在看護学校で助産師を目指し勉強に励んでいる。皆様の温かいご支援のおかげで、サビタは悲劇の出来事に打ちのめされず、自分の手で、未来を切り開いている。

今後の展望

現在建設中のクリニックは、16年８月オープンに向けて、ファンドレイジング追い込み中。同年、スポンサーからの依頼により、フィリピンのパラワン島に小さなクリニックをオープン予定。長期的な運営を目指し、基金の設立も視野に入れ、助産師の育成にさらに注力する。20年間寄付のみで全ての活動を賄ってきたロビンの一番の懸念は、いつでも今後の運営費。特に、ブミセハットで働く助産師、看護師、医師に対し、彼らの献身的な働きに見合った報酬を安定して提供できるよう、尽力する。

Message from Robin

ロビンからの感謝の言葉

皆様の想い、心があって初めてブミセハットの活動があります。私たちは皆様の想い、心を具現化する「手」に過ぎません。多くの支援者の方々は、「〇〇を使ってください」と使途を指定して寄付をしてくださいます。「奨学金の足しに」「病院の建設費に」「医療費を払えない方に」などです。私は、その想いを忠実に守ることが非常に重要だと思っています。それに誠実であることが、私たちがこんなに長い間、寄付のみでこれだけの活動を継続できた理由です。皆様の思いに、心から感謝します。愛を込めて。

Work Style

海を越えて、それぞれのライフスタイルで

アース・カンパニーは、デジタル・ノマドの集合体です。ノマドは英語で「遊牧民」を意味し、デジタル・ノマドは、特定のオフィスを持たず、インターネットやスマホなどの最新テクノロジーを駆使し、好きな環境で好きな時間に仕事をする人々を指し、すでにアメリカでは全労働人口の全体の30％がデジタル・ノマドと言われています。

アース・カンパニーでは、4大陸から志を共にする8人の仲間達が、それぞれのポテンシャルを最大限に活かせる環境を創るため、各自のライフスタイルに合ったワークスタイルを尊重しています。サンフランシスコのシェアハウス。長野の一面の雪景色を目の前に。子供が寝付いた後の夜中のリビングルーム。人によって、一番効率的に働ける場所は違うはずです。自分に合う環境で働いた方が効率は上がる。通勤できないから、地方に嫁いだから、または出産したから仕事ができなくなるのは、もったいない！

そんな考えから、私たちはデジタル・ノマド、在宅勤務、子連れ出勤など、新しい働き方を実践しています。皆が複数の仕事を手がけつつ、それぞれの業界で培った最新の専門知識を持ち寄り、アース・カンパニーで発揮しています。まさにこれこそが、未来型のワークスタイルです。

もちろん、いいことばかりではありません。各国に住む仲間と直接顔を合わせる機会は少なく、常に電話やテレビ会議でのミーティングとなるため、ミスコミュニケーションが発生したり、雨季の途上国は停電が頻発したり、と課題はあります。しかしテクノロジーを最大限に活用し、皆が「繋がる気持ち」を絶やさないことで、それを乗り越えるよう努めています。

後世に残せる未来に、ワークライフバランスは極めて重要な要素です。だからこそ私たち自身が、サステナブルな生き方・働き方を、率先して実践していきたいと考えています。

Earth Company Family

アース・カンパニー・ファミリー紹介

① ECでの役割
② ECの他に手がける仕事
③ 居住場所
④ プロフィール

Yoko Oishi

① 支援者サポート
② 政策研究大学院大学博士課程
③ 東京
④ ICU卒。東大医学部GHLP修了。どんな悪状況もポジティブに捉える特殊能力を兼ね備えたエコノミスト。

Noriko Komatsu

① マーケティング
② 人材育成・採用コンサルティング会社
③ 長野
④ ICU 卒。7年間リクルートキャリアで広報を担当。国際中医薬膳管理師、ソムリエ、野菜ソムリエの資格も持つアクティブ二児の母。

Yukari Takizawa

① 東京事務
② ハーバード・ビジネス・スクール
日本リサーチセンター
③ 東京
④ ICU卒。スイス系証券会社UBS、東大などでプロジェクト管理をこなしてきた凄腕。超楽観主義の一児の母。

Yohei Ueda

① メディア戦略 / 専属ライター
② 日本メガソーラー整備事業
③ 東京
④ 東海大学卒。KADOKAWA、野村IRで雑誌編集、デザイン制作会社ではブランディングを担当してきた食いしん坊。

Asami Kawamoto

① 理事 / 戦略アドバイザー
② ISAK、Coding House
③ サンフランシスコ
④ ICU卒。三菱商事を経て、ISAKに立ち上げから関わる。テクノロジーx教育分野に情熱をかけ、戦略的思考に長けた、艶肌プログラマー。

Miori Oka

① 理事
② 難民をサポートするNGO
③ スウェーデン
④ 慶應大学、ハーバード教育大学院卒。日本銀行勤務後、アショカ・ジャパンなどを経て、社会的弱者のサポートに情熱をかける

Aska Hamakawa

① 代表理事、共同創設者
② 2人のモンスターキッズの育児
③ 東京、バリ島
④ 太平洋を愛してやまないエコ＆オーガニックな国際協力ファンドレイザー。コンサル上がりの元タヒチアンダンサー。趣味・エクセル。

Tomo Hamakawa

① 共同創設者
② 国際NGOコペルニク
③ 東京、バリ島
④ エリート路線を脱線して14年。運動しないと廃人化する肉食系ソーシャル・イノベーション専門家。

Bali Retreat

バリ島・ウブド村でのスタッフ総会

昨年６月に、アース・カンパニー東京チームがバリ島へ足を運び、古来からヒーリングで知られるウブド村で、３日間にわたるスタッフ総会を行いました。

普段の環境から一歩飛び出し、視界を変え、新しいアイディアに触れ、固定観念を覆される体験も、クリエイティブに働いていく上で大事なことです。

ウブド村のリトリートでは、①中期レビュー、②次プロジェクト企画、③中期事業計画の策定と、ミーティングは連日朝から夜中まで続きました。Hubud など革新的なシェア・オフィスやカフェで一面に広がる田んぼを目の前に行う組織分析、休憩には畦道散歩、バリ島を拠点に置く社会企業訪問、異文化体験など、密度の濃いリトリートとなりました。

このように私たちは、仕事面だけでなく、人間関係やチームとしての絆、心に余裕を持つこと、個々が振り返る機会を作ること、原点に返ることも、チームにとって大事な要素だと考えています。

コラム

Nomad-working Ubud Style

バリ島はデジタル・ノマドのメッカ！？

バリ島は観光のイメージが圧倒的に強いですが、今や「ソーシャル・イノベーションの宝庫」「次のシリコンバレー」とも呼ばれ、起業家の注目の的となっています。その多くがデジタル・ノマドで、島（特にウブド村）に集結する画期的なシェアオフィスで、それぞれがクリエイティブな仕事をしています。

中でも注目されているのが、世界中に点在するシェアオフィス Impact HUB の Ubud 版、Hubud。田んぼを目の前に、竹建築で創られたオフィスで、時には猿に遭遇しながら、どっぷり独創の世界に浸かることができます。

そんな理想的な環境に、世界中から集まったデジタル・ノマドが、それぞれの専門知識をシェアしたり情報交換しつつ、コミュニティが創られています。

今後の展望

今後の Earth Company の活動を事業別にご紹介します。

1 [支援事業] Empower

Earth Company's IMPACT HERO of the Year 2017

2015 年のベラ・ガルヨス、2016 年のロビン・リムに続き、
2017 年以降も引き続き、途上国の未来に変革を起こす IMPACT HERO を、支援していきます。
これまで同様、ファンドレイジングに加え、メディア広報、企業や NGO とのパートナーシップ開拓、
支援先起業家の発展につながるネットワーク拡大など、包括的な機会創出支援を行います。
現在、次期 IMPACT HERO の選考段階ですので、追ってみなさまにご案内させていただきます。乞うご期待！

2 [教育事業] Inspire

2016年3つの教育事業を予定しています

● **GAKKO in Bali（7 月予定）：**
「GAKKO Project」と連携し、イェールやハーバード始め世界名だたる大学からクリエイティブな大学生が集まり、高校生に 10 日間の「世界一楽しいサマーキャンプ」を開催

● **GiFT Diversity Voyage in Bali（8 月予定）：**「GiFT」率いる東洋大学の学生がバリ島を訪れ、現地学生と共に、現地の社会課題解決に挑む、体験型地球市民育成ツアーをアース・カンパニーがナビゲート。

● **Social Innovation Study Tour in Bali（9 月予定）：**ソーシャル・イノベーションの宝庫であるバリ島で、社会貢献を志す日本の若者に、社会革新の最前線を現地で体験してもらうスタディツアーを、アース・カンパニーが開催。

3 [コンサルティング事業] Advise

社会変革のアドバイス

企業・団体に対するコンサルティング事業では、社会変革に挑むビジネスや団体のニーズに対し、
アドバイザリーなどを通して、より大きな社会インパクトの創出を目指していきます。
現行のアドバイザリー案件に加え 2016 年は、GAKKO Project のアドバイザー、Amani Institute のメンターに就任。
今後の新規案件に関しては、順次ご報告いたします。

1 周年感謝パーティ & 活動報告会

Today is the first day of our future...

今日は、未来の第 1 日目である。

2015 年 12 月に、代官山 T-SITE でアース・カンパニー 1 周年感謝パーティを、
また岡山で活動報告会を開催しました。

下は小学生から上は 85 才まで老若男女様々な方が駆けつけてくださり、
代官山では 102 名、岡山では 36 名の方にご参加いただきました。

日々の私たちの意思決定が、直接的に私たちの未来を影響しています。
今日の行動、明日の行動、そのすべてが、地球の未来を創っています。
だからこそ、子供達の将来のために、1 日 1 日を意識的に過ごさなくてはなりません。

2 つのイベントでは、そんな思いを、日頃ご支援・ご協力いただいている皆様と
ひとつにすることができました。ご参加くださった皆様、本当にありがとうございました。

イベント・レポート Event Report

[1-2] 会場では、支援者の方々がお互いに積極的にコミュニケーションをとり、たくさんの出会いが生まれました。「他の支援者の顔が見られるのは、自分のモチベーションも上がる」という声をいただきました。

[3-5] 代官山のイベントでは、ベリーダンスに、DJ セレクトの Jazzy R&B に、「五感」で味わうブッフェと、多くのアーティストの方にプロボノ協力頂きました。

[6] LGS とブミセハット助産院の現況を共同創設者濱川夫妻が報告し、中には涙する方も。

[7] 東日本大震災後に、石巻で復興支援に携わった大工、伊藤麻哉さんが、このイベントのために、プロボノで理想の未来を描いてくださいました。

[8] NPO への寄付を目的にハイセンスな T シャツを制作する京都のソーシャルブランド、Jammin'。アース・カンパニーのためだけに制作していただいた T シャツです。多くの支援者の方に共感いただいた、「Today is the first day of our future」のメッセージがデザインされています。
購入代金の一部が寄付となります。
ご希望の方はぜひ事務局 info@earthcompany.jp までご連絡ください。絶賛発売中です！
色：白、紺　ネック：丸首、V ネック、女性用 U ネック　サイズ：女性用タイト、S、M、L、XL　値段：￥4,500（税込）

[9] エシカル・ファッション・ブランド 3 社が協賛下さり、ビンゴに豪華賞品を提供してくださいました。

エシカル・ファッション：
環境や人、文化に負担をかけない、倫理にかなったファッション。デザイン性高く、確かな品質であることから、社会課題に気を配る人のみならず、純粋にファッションを楽しみたい人のもとにまで届き、今注目されるファッションジャンル。

Messages from Supporters

サポーターの皆様からのメッセージ

個人寄付

森・濱田松本法律事務所
パートナー　弁護士

石黒徹 様

無分別な大人達が先祖から引継いだこの地球の環境や平和を壊していく一方で、志ある若者達が強くしなやかな精神と素直な情熱で、地道に着実に社会的インパクトのある活動に取組み、希望へと繋る王道を切拓いている。アース・カンパニーの若者達が我々全ての世代に代り、次世代への希望の灯を高く掲げ続けてくれることを願い応援してゆきたい。

法人寄付

ＳＭＢＣ日興証券吉祥寺支店
支店長

名倉真弓 様

「助けられる小さな命」「教育を受けられない子供達」「災害に合われた方々」などを救おうと惜しみもなく手を差し伸べる素晴らしい活動をされている濱川夫妻を知った時、自分たちにも何かできないか、本当に考えさせられました。代官山での１周年感謝パーティーに参加し、その活動や精神に触れ、更にこの活動の賛同者を増やすことこそが我々にできるサポートだと思い微力ながら応援しております。

個人寄付

三菱商事株式会社
復興支援ボランティア

稲本都志彦 様

東日本大震災後、瓦礫と埃の中で多くのボランティアと共に汗を流し、信頼の絆を結び、希望をよみがえらせた人がいました。その人の汗は、アース・カンパニーという小さな存在に結実し、ダライラマの祝福をうけ、一歩一歩Compassion の輪を広げています。 母なる地球に生きる人間の困難を、共に汗を流し、人々の絆で取り除こうとする。そんな謙虚な取り組みに、ヒューマンな温かい息吹を感じています。

個人寄付

奄美大島・加計呂麻島に暮らす
４児のシングルマザー

仲山真友子 様

「LGS は、環境や実践的な農業スキルを教える学校です。しかしその奥にある真髄は『愛』です。」LGS 代表のベラさんのこの言葉に触れた時、何故だか涙がとまりませんでした。アース・カンパニーの活動に心惹かれるのは、私の中にある、争いの種が、全ての命の笑顔の種に変わっていくことを知ったからでしょう。

法人寄付

バリアフリー映画鑑賞推進団体
City Lights 代表

平塚千穂子 様

目が見えなくなることを“光を失う”と言うことがありますが、闇を知ればこそ、見える光があることを、彼らは教えてくれます。彼らは見えない「光」に触れ、感じています。だから、困っている人に手を差しのべるのも、なぜか自然な行いです。アース・カンパニーを通じて、また少しでも光を届けることができれば、光栄です。

個人寄付

International School of Asia, Karuizawa (ISAK) 代表理事
日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2015受賞

小林りん 様

社会起業は、スケールも大切ですが、それよりも、如何にサステイナブルなモデルを構築するかが、中長期的にインパクトを出すための鍵だと思っています。資金面だけでなく経営面・機会創出という側面からも支援出来るスタッフを擁しているのが、アース・カンパニーの強みであり、ユニークさだと思います。これからも微力ながら応援させて頂きます！

Earth Company を支えてくださる企業・団体

技術協力 — Google for nonprofits

法人寄付 — いっしょに、明日のこと。 Share the Future — SMBC日興証券

会場提供 — DAIKANYAMA T-SITE

プログラム共催 — iFT Global Incubation × Fostering Talents

法人寄付 — City Lights since 2001

技術協力 — アイケイ会計事務所

技術協力 — CES 株式会社映像システムズ

技術協力 — Flagship

会場提供 — Share Okusawa

プログラム共催 技術協力 — GAKKO

イベント協力

古田 麻利子　イベントプランニング
内藤 久美　イベントプランニング
マニヤン麻里子　司会
Kahina　ベリーダンス
北方 寛丈　ピアノ
比嘉 康洋　ケータリング
菅野 智子　ケータリング
DJ Tyler Beats　DJ
平部 朝貞　音響・照明
和 美希　撮影
岡崎 智子　ポスターデザイン
伊藤 麻哉　イラスト
矢野 瑛子　イラストデジタル化
辻 啓介　グッズデザイン

イベント協賛企業

Smateria
Cloudy
Veganie

イベント・ボランティア

Teo Si Jia　早稲田大・Singapore
Tess Kwan Tung　早稲田大・Hong Kong
William Fu　早稲田大・Hong Kong
Khin Thet Swe　東大・Myammer
Momoko Koyama　東大・Singapore & Japan
Delong Wang　東大・China

メディア掲載情報

トジョウエンジン（12/22/2015）
後世に残せる未来を創るために！
Earth Company 1周年感謝パーティ参加レポート

BRILLIANT CINEMA CLUB（10/14/2015）
人類における最大のドラマ“出産”を真正面から描ききった
映画と“出産”を支援し続けるある女性の話

日経 DUAL（5/13/2015）
「夫婦とは、愛の物語を一緒につくるための存在」

日本法律家連盟「環境と正義」（3/25/2015）
法律家への手紙「支援を支援する」Earth Company

GREENZ（1/25/2015）
東ティモールに環境教育を！
日本人で初めてダライ・ラマに表彰された夫婦が取り組む
”支援を支援する”活動「アースカンパニー」

FUTURUS（1/15/2015）
国家存続の危機 !?
「東ティモール」を救うべく立ち上がる女性たち

トジョウエンジン（1/13/2015）
途上国で社会貢献活動を行う革新的プロジェクトと
先進国の支援希望者を繋ぐ！
一般社団法人「Earth Company」の取り組みをご紹介

FUTURUS（12/22/2014）
世界が称えた日本の UNSUNG HERO（謳われることなき英雄）

FUTURUS（11/24/2014）
グリーンスクールに東ティモールの未来を託せ

財務会計報告

1. 損益計算書

[税込]（単位：円）
自 平成27年1月1日　至 平成27年12月31日

科目			金額
経常収益	受取寄付金	受取寄付金	5,462,223
		支援受託事業収益	491,673
		会費収益	368,500
		その他事業収益	150,000
		受取利息	50,750
		雑収益	60,800
	経常収益　計		**6,583,946**
経常費用	事業費	支払寄付金	5,686,946
		仕入高	155,366
		業務委託費	474,680
		会議費	93,797
		旅費交通費	598,265
		通信費	198,984
		消耗品費	97,284
		賃借料	183,371
		広告宣伝費	120,619
		接待交際費	349,290
		新聞図書費	1,080
		リース料	32,400
		租税公課	4,400
		支払手数料	428,230
		雑費	30,007
		事業費　計	**8,454,719**
	管理費	支払手数料	124,619
		管理費　計	**124,619**
	経常費用　計		**8,579,338**
当期経常増減額			**△ 1,995,392**
経常外収益	経常外収益　計		0
経常外費用	経常外費用　計		0
税引前当期正味財産増減額			△ 1,995,392
法人税、住民税及び事業税			11,600
当期正味財産増減額			△ 2,006,992
前期繰越正味財産額			1,997,021
次期繰越正味財産額			△ 9,971

2. 貸借対照表

[税込]（単位：円）
平成27年12月31日 現在

科目			金額
資産の部	流動資産	現金	27,398
		普通預金	4,311,770
		未収金	1,281,675
		貯蔵品	292,087
		立替金	94,684
		流動資産　計	**6,007,614**
	資産の部　合計		**6,007,614**

科目			金額
負債の部	流動負債	短期借入金	2,000,000
		未払金	4,017,585
		流動負債　計	**6,017,585**
	負債の部　合計		**6,017,585**
正味財産の部	正味財産	前期繰越正味財産額	1,997,021
		当期正味財産増減額	△ 2,006,992
		正味財産　計	**△ 9,971**
	正味財産の部　合計		**△ 9,971**
負債・正味財産の部　合計			**6,007,614**

支援方法・寄付

アース・カンパニーでは、常時皆様からのご寄付を受け付けています。アース・カンパニーのホームページより クレジットカード寄付、または銀行振り込みにてお手続きいただきますよう、お願い申し上げます。

寄付方法

支援先への直接寄付

・銀行振り込み

銀行　みずほ銀行
支店　恵比寿ガーデン出張所（625）
口座　（普）1087871
名義　一般社団法人 Earth Company

確認のため、お振込みの上、
donation@earthcompany.jp まで、ご連絡ください。

・クレジットカード

当団体ホームページよりお手続きいただけます。

アース・カンパニーの活動を支援

・マンスリーサポーター制度

アース・カンパニーは、支援先起業家の財政ニーズに対して、支援金を募っていますが、それ以外の支援、つまりメディア広報、パートナーシップ構築、などの機会創出支援は、アース・カンパニーの活動を通して提供されます。
2016 年半ばより、アース・カンパニーの活動資金を募るため、マンスリーサポーター制度を導入する予定です。これについては別途ご案内させていただきます。

その他の支援方法

・翻訳ボランティア（中長期）

支援先の情報や当団体の活動内容を、日本語と英語で発信しているため、日英・英日双方の翻訳ボランティアを常時募集しています。お力を貸していただける場合は、ホームページの「人材募集」のページよりご登録ください。ニーズが発生したときにこちらからお声掛けいたします。

・プロボノ、ボランティア

ご自分の専門知識・スキルを、アース・カンパニーの活動に無償提供していただける方を常時募集しています。ご協力いただける方は、ホームページの「人材募集」のページよりご登録ください。関連するニーズが発生したときに、お声掛けいたします。

・寄付ボックスの設置

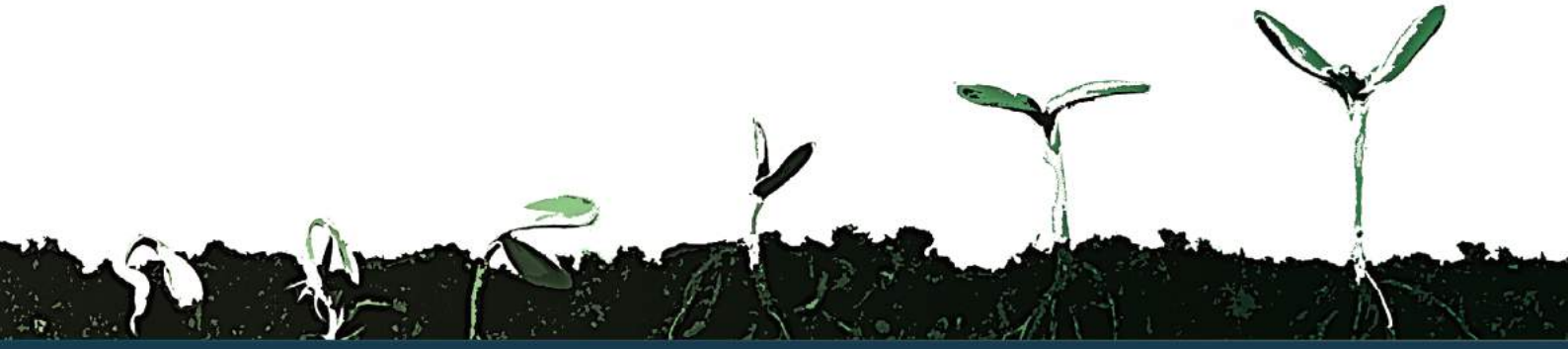
支援先への寄付金を集めるための寄付ボックスを、ご自宅、店舗、会社などに設置していただける方は、ぜひご一報ください。
（※ 募金箱の大きさは、幅：120mm 奥行：97mm 高さ：179mm です。）

・アース・カンパニーの活動拡散のご協力

様々な支援の形の中でも一番気軽にできる支援方法が、この「拡散」です。ニュースレターやFacebook などアース・カンパニーの発信する情報を、友人・知人の方に拡散ご協力ください。もしご関心を頂ける方が周りにいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

寄付のお手続：http://www.earthcompany.jp/donate
寄付に関するご質問・ご連絡先　　メール：donation@earthcompany.jp　電話：アース・カンパニー東京事務局　03-6753-1558

EARTH COMPANY
Soil for Social Ideas



アース・カンパニーは
「未来を託された」途上国の社会起業家と
日本のみなさまの「橋渡し」を行い、
後世へよりよい地球を引き継ぐ活動への
支援の輪を広げることを目指しています。

一般社団法人 Earth Company
住所　〒106-0042 東京都港区麻布台 3 丁目 1-6 飯倉片町アネックス 3F
TEL　03-6753-1558（東京事務局）
E-mail　info@earthcompany.jp
Web サイト　http://earthcompany.jp
Facebook　https://www.facebook.com/EarthCompanyJP/